

中央社会保険医療協議会 薬価専門部会（第31回）議事次第

平成18年7月12日（水）

専用第15会議室（厚生労働省7階）

議題

- 薬価改定の頻度に係る今後の検討の進め方について

薬価改定の頻度に係る今後の検討の進め方について

1 経緯等

- ◎ 「薬価算定方式等に関する中央社会保険医療協議会の建議」（昭和62年5月25日）《抜粋》

第2 当面の改善策

(2) 部分改正の廃止等

部分改正を廃止し、できる限り迅速な全面改正を実施する。なお、現状においては市場における価格の安定にある程度の期間を要するので、市場価格の形成をまっとうおむね2年に1回程度の全面改正になることはやむを得ない。

しかしながら、この間にあって、不当に薬価差を拡大せしめる行為等が認められた場合には、所要の措置を講ずることとする。

- ◎ 「平成18年度薬価制度改革の骨子」（平成17年12月16日中央社会保険医療協議会了解）《抜粋》

4 薬価改定及び薬価調査

- 現在2年に1回行っている薬価改定については、頻度を含めたその在り方について、引き続き検討を行うこととする。

2 今後の検討の進め方(案)

- 薬価改定の頻度を含めた薬価算定基準の在り方について論点を整理するため、次回以降、薬価専門部会において、医薬品産業界（①日本製薬団体連合会、②米国研究製薬工業協会、③欧州製薬団体連合会及び④日本医薬品卸業連合会）からの意見聴取を行うこととしてはどうか。

【当面の予定(案)】

- 平成18年7月12日 : 今後の検討の進め方について(了解)
7月 下旬 : 医薬品産業界からの意見聴取(第1回)
8月 月上旬 : 医薬品産業界からの意見聴取(第2回)

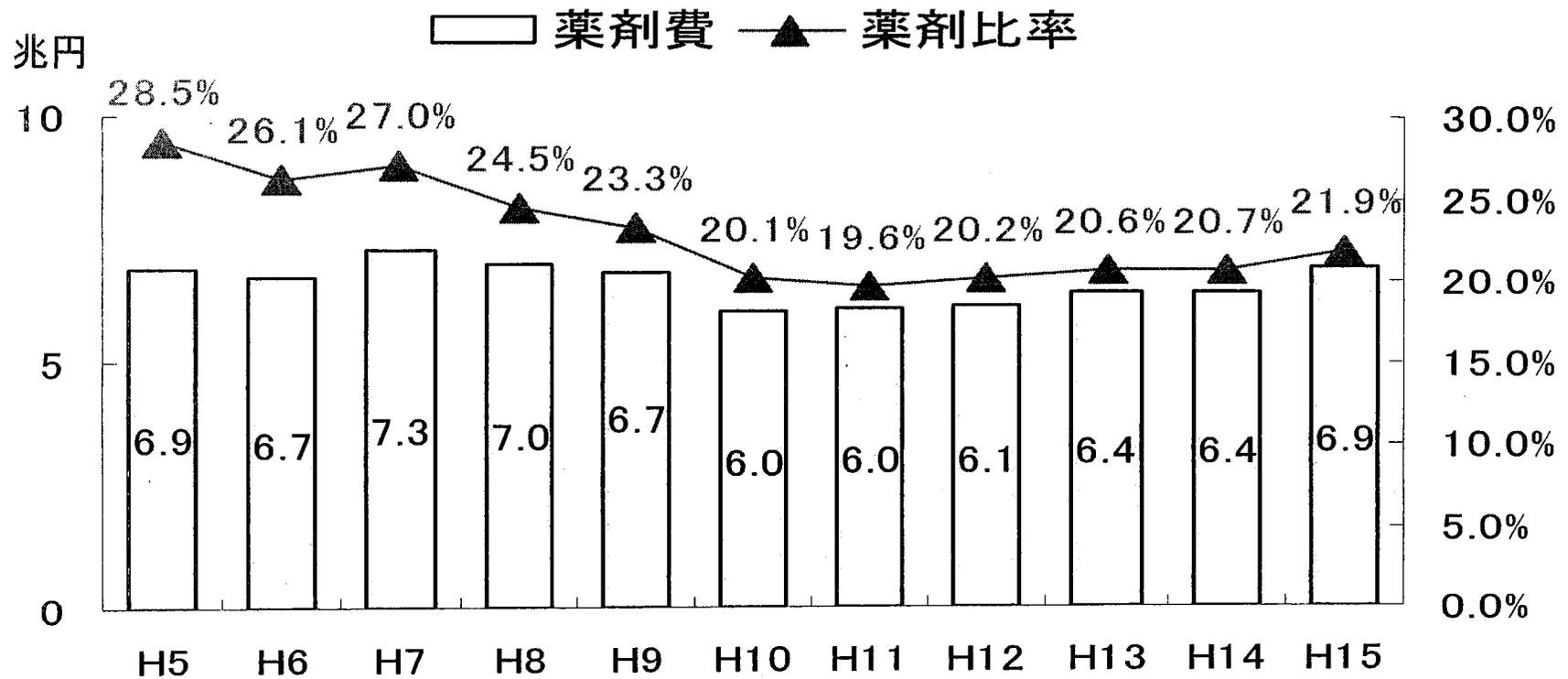
}

最近の薬価改定の経緯

| | 薬価収載 品目数 | 改定率 | | 備 考 |
|-----|-------------|-------|--------|--------------------|
| | | 薬価ベース | 医療費ベース | |
| H4 | 13,573 | ▲8.1% | ▲2.4% | R幅15% |
| H6 | 13,375 | ▲6.6% | ▲2.0% | R幅13% |
| H8 | 12,869 | ▲6.8% | ▲2.6% | R幅11% |
| H9 | 11,974 | ▲4.4% | ▲1.3% | R幅10% (長期収載品8%) |
| H10 | 11,692 | ▲9.7% | ▲2.7% | R幅5% (長期収載品2%) |
| H12 | 11,287 | ▲7.0% | ▲1.6% | 調整幅2% |
| H14 | 11,191 | ▲6.3% | ▲1.3% | 調整幅2% |
| H16 | 11,993 | ▲4.2% | ▲0.9% | 調整幅2% |
| H18 | 13,311 | ▲6.7% | ▲1.6% | 調整幅2% |

薬剤比率と薬剤費の推移

- 近年の薬剤費は6兆円強でほぼ横ばいに推移。
- 薬剤比率は、約3割から約2割に低下した後、ほぼ横ばいに推移。



| 国民医療費 | 24.4兆 | 25.8兆 | 27.0兆 | 28.5兆 | 28.9兆 | 29.6兆 | 30.7兆 | 30.1兆 | 31.1兆 | 31.0兆 | 31.5兆 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|

出典：厚生労働省発表資料(一部修正)

薬価差の推移

○薬価差は縮小されてきている。

